

発足式に百人 若手結束誓う



1

京都大学同窓会若手会が3月23日、発足した。東京都品川区の京都大学東京オフィスで開かれた発足式には、予想を大幅に上回る90人近い人たちが参加。今後の団結を誓い、杯を交わした。懇親会では京大にちなんだクイズやゲームも実施し、会員相互の交流が深まった。

※設立総会には若手83名(男性59名、女性24名)と来賓5名、合わせて88名がご出席。

写真説明

- ① 発足式の参加者達
- ② 受付の様子
- ③ 美味しい料理
- ④ ご来賓の皆様
- ⑤ 会場内の名刺交換の様子
- ⑥ ゲームでの商品争奪戦
- ⑦ クイズのルールと様子
- ⑧ クイズの勝利者達



2



4



5



8



3



6

京都・京大クイズルール説明

- チーム毎の団体戦及び個人戦。
- 問題数は全10問、1問1点か2点、全て4択形式。
- 全て京都・京大に関する問題、1問30秒で回答。
- 各チーム内で話し合い、答えを一つに統一。
- スマホ使用、他チームへの迷惑行為は禁止。
- 私の美しい日本語に文句を言うのは減点対象。

秘 優勝チーム・個人には豪華賞品 秘

7

設立総会幹事団

許志国
 位上陽子
 木下朋和
 指原直子
 松原大樹
 福光純子
 梶浦聡
 田中美千子
 鼓明子
 田中匠身
 荒木勇輝
 林匡史
 仲村和代
 上田甲斐

※申込名簿順

若手会初代役員(4人)



副会長：木下朋和氏
 (理学研究科・2004年修了)



初代会長にジーク

許志国氏(愛称:ジーク)
 2006年、経済学研究科修了。2007年から経済学部同窓会東京支部の常任理事に就任。同窓会に参加して「若手が少ない!」と危機感を募らせ、会の設置を呼びかけた。



理事：松原大樹氏
 (工学研究科・2007年修了)



理事：田中匠身氏
 (文学部・1993年卒)

今後の若手会予定一覧

- ・第2回(交流会)6月1日(土)18:00～
 東京倶楽部ビルディング(霞が関)
- ・第3回(講演会)9月7日(土)14:00～
 京大東京オフィス(品川)
- ・第4回(関西若手会)11月2日(土)16:00～
 京大時計台ホール(京都)

詳細と参加申込：若手会ホームページへ

若手会

京都大学同窓会若手会とは、京都大学の学位(学士、修士、博士)を有し、且つ年齢が満45歳以下の若者に限定した同窓会組織である。

京都大学及び社団法人学士会からの祝辞

京都大学

ご挨拶

京都大学同窓会若手会設立総会の開催、おめでとうございます。

私は、京都大学同窓会代表幹事をしております京都大学理事・副学長の小寺秀俊でございます。



小寺秀俊副学長祝辞
(道上吾朗課長代読)

本日の設立総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。京都大学同窓会は、2006年11月に設立され、当初の加入同窓会数は、学部・学科、地域を合わせまして51組織でした。7年目を迎えました現在は、学部・学科等の同窓会が47、国内地域同窓会が22、海外地域同窓会が22、そしてクラブ・サークル等同窓会が4、合計95組織が加入しています。また、この他に東京と名古屋地区に連絡会の組織がございます。このように京都大学同窓会は、着実に発展してきております。しかし、いずれの同窓会においても若い会員の加入が少ないことや、他の同窓会との連携のないことが悩みであり、課題となっております。このような現状を踏まえ、京都大学同窓会が大きく発展するためには、これらを解決することが必要であると考えていたところです。

この度、京都大学を卒業・修了した満45歳以下の若手の皆様を対象にした京都大学同窓会若手会を設立され、若手同士の交流を深め、既存同窓会との「相互補完」を目指して活動されるということは、大いに意義があり、大変に有り難いところであります。

これからも積極的に、同窓会活動に参加して頂き、学部・学科等同窓会及び地域同窓会と大いに交流して頂き、京都大学同窓会全体の活性化と京都大学の発展にご協力くださることを期待しております。

また、今年で第8回目を迎えますホームカミングデーは、11月2日(土曜日)に開催いたします。

これを機会に是非、母校京都大学にお立ち寄りいただき、懐かしい日々を思いを馳せ、旧交を温めるとともに、他の同窓生の方々との新たな交流を深めていただける機会になればと思います。皆様のご参加を心からお待ちしております。

最後になりますが、京都大学同窓会若手会の発展と、会員の皆様のご健康、そしてますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

簡単ではございますが私からのご挨拶とさせていただきます。

2013年3月23日
京都大学同窓会代表幹事
京都大学理事・副学長
小寺 秀俊

学士会

京都大学同窓会若手会 設立総会への祝辞

「京都大学同窓会若手会」設立、おめでとうございます。この画期的な設立総会にお招き頂きながら、出席して直接祝辞を述べられないこと、まず心よりお詫び申し上げます。同時に、代読という形で祝辞を述べ、また、学士会についてPRする機会を与えて頂いたことに心より御礼申し上げます。

本日ご列席されている西澤宏繁様とは、若い時代からお付き合いがございます。西澤様は興銀、私は日銀で、お互いに切磋琢磨した仲で、最近では学士会で、西澤様は評議員、私は理事として学士会の会員増強を目指し、ともに頑張ろうと言いつけている仲です。若い頃の繋がりは、人生の大切な宝です。本日、お集まりいただいた皆様にも、その宝を築きあげて頂きたいと思っております。学士会も、その様な思いで応援させていただきます。

此処で少し、学士会についてお話をさせてください。私たちが学生の頃は、卒業して学士会に入ることが待ち遠しいくらい学士会のステータスは高く、会員数も平成に入った頃は10万人を超えておりました。七大学が独立行政法人となった頃から会員数が減り始め、現在はピーク時から半減し5万人となってしまいました。これは、戦争中の昭和17年の水準です。学士会が、過去の栄光に胡坐を欠き、特に若者を引き付ける企画が乏しかったのも事実です。幸い、先輩方のおかげで、将来にわたり継続的なサービスを行える環境があり、学士会の事務局に於いても、新しい事務局長を中心に職員一同、若者に魅力のあるサービスを企画し、多くの若い方々にも会員になって頂きたいと熱望しております。七大学の過去の叡智をつたえ、また、七大学の現在の叡智をつなぎ、七大学の将来の叡智を作り出すため、未来の担い手となる皆様に応援していきたい。そうした学士会の存在意義は、今の、日本の政治経済の現状を考えると、むしろ高まっていると私は感じております。

これから京都大学同窓会若手会と学士会、ウイン・ウインでの発展を心から祈って私の祝辞とさせていただきます。



学士会)村松健一課長代読

2013年3月23日
社団法人学士会
常務理事 南原 晃